

伊豆大島・ジオパーク構想

izu-oshima geopark plan

大島 治^{1*}, 白井 岩仁², 野村 昌宏³

Osamu Oshima^{1*}, iwahito shirai², masahiro nomura³

¹伊豆大島火山博物館, ²大島観光協会, ³東京都大島町町長室振興企画係

¹izu-oshima museum of volcanoes, ²oshimawikipedia, ³tokyo oshima chouchoushitsu shinkokikaku

<伊豆大島の地質概略>

東京都心から南南西に110km、伊豆半島と房総半島の南端のほぼ中間に位置する伊豆大島は伊豆諸島最北端・最大の活火山島である(約91Km²)。南の三宅島・八丈島などとほぼ一直線に並んでフィリピン海プレート上の火山フロントを成す。長径約15km、短径約9km、北北西～南南西に伸びた円錐状で、頂部に径3×4kmのカルデラ・中央火口丘三原山(最高点764m)がある。これらを含み島のほぼ全域を覆うのは成層火山「伊豆大島火山」であり、切りたった東海岸に基盤のより古い侵食された3火山体が露出している。

伊豆大島火山は日本の代表的活火山の1つである。玄武岩質マグマの活動を度々起こす点では国内第1位にランクされる。日本の多くの火山が安山岩質で爆発的活動をするのとは異なり、穏やかに火柱を上げるストロンボリ式噴火が多く、三原山山頂火口から上がる火柱(～溶岩噴泉)や火映は、「御神火」として崇められ、この島のシンボルともなってきた。御神火は1974(昭和49)年までしばしば見られた。最新の顕著な噴火は1986(昭和61)年である。三原山での山頂中心噴火に加えカルデラ床北部と北外輪山斜面の2ヶ所で500余年ぶりに割れ目噴火まで起きた。北外輪山斜面から流出した溶岩が人口密集地の元町に迫ったことから、島民約1万人の総脱出、約1ヶ月間島外避難という社会問題にまで発展した出来事だった。この1986年噴火は噴出量数千万トン、伊豆大島火山の噴火としては「中噴火」だった。同クラスは明治以降では1876-77年・1912-14年・1950-51年など35年の間隔をおいて起きている。その間に度々見られる御神火は主に噴出量100万トンの桁以下の「小噴火」である。一方、噴出量1億トンを超す「大噴火」は平均130-150年に一度の割合で起きる。伊豆大島火山の成長に大きな役割を果たしてきており、約1500年前(5世紀)から今日までに12回あったことが知られている。最新の大噴火は1777-92年の安永噴火であり、中央火口丘の三原山はこの時誕生した。歴史を遡ると、山頂カルデラ生成前も活動はほぼ同様なペースで繰り返されてきたらしく、毎度の大噴火の跡は島全体を覆う降下スコリア～火山灰～風化土壌の「1輪廻の噴火の産物」に保存されている。南西部都道沿いの「地層大切断面」では1万年以上の記録が刻まれている。また、伊豆大島火山の斜面には70コ以上の多数の側火山があり、その分布・配列はフィリピン海プレートの運動方向と調和的である。伊豆大島は火山とテクトニクスを同時に学び考えさせる場でもある。

<ジオパークとしての伊豆大島>

伊豆大島はジオパークとして極めて魅力に富んでいる。いくつかの点を指摘してみよう。

①日本に数少ない玄武岩の活火山である。玄武岩火山特有の活動様式・噴出物・堆積様式をまざまざと見せている。特に最近(1950年～)の真新しい噴出物は、活火山でしか実感できない火山活動のダイナミズムを直に伝えており、まさに火山の生きた教科書である。②島火山としての特質を備えている。国内多くの内陸火山と異なり、海水に囲まれているために標高の低い地域ではマグマと水のせめぎあいによって出来る独特の火山体を併せ持ち、島全体が言わば火山の展示場、野外博物館である。③多様な火山・噴出物が比較的狭い範囲内に展開し、アクセスもよい。山頂まで遊歩道が整備されており、容易に火口1周の絶景を満喫できる火山は他にあまり例がない。

④短期間の噴火時以外は有毒ガスを排出することもなく普段極めて安全である。⑤首都圏・伊豆半島からの距離も近い。そして何より⑥大自然の景観が素晴らしい。山頂三原山に立てば、近くにはカルデラ壁に囲まれた砂漠～月表面のような世界が、そして洋上には大島とは全く質の異なる新島・神津島等の溶岩ドームでできた火山や伊豆半島にちりばめられた単成火山群、更には秀麗な富士山までもがグルリと見渡せる。⑦火山観測網は多々ある活火山の中でも特に密である。火山性地震・地殻変動をはじめ火山体内部の様々な変化が常時観測され一部はリアルタイムで公開されており、大地の鼓動を直に感じ表面現象と照らし合わせることができる。以上のように、伊豆大島は火山を楽しみながら学ぶ絶好の場と言えよう。

<ジオパーク実現に向けて>

我々は、この伊豆大島火山特有の自然環境と火山と共存共栄しながら刻んできた歴史・伝統・文化を基に島内に多くのジオサイトを形成し、島全域を火山と地質のテーマパークとすべく各ツアーの企画実施を行う。そして、昭和の観光ブーム以来、全くその形を変えなかった大島の観光に別の角度より光を当て、新しい形を創造すべく官民一体となった活動を推進、展開しつつ、日本ジオパークへの認定申請を行い、この目標達成を目指す。

キーワード:活火山,三原山,カルデラ,割れ目噴火,火山と共存共栄,官民一体

Keywords: volcanic island, basaltic, stratovolcano, Miharayama, lateral eruption